

関西エリアにおける電力需給状況等について

関西電力株式会社
2022年9月27日



今夏におけるエリア別の需給バランス	2
今夏の最大電力実績の推移	3
今冬におけるエリア別の需給見通し	4
今夏の需給対策	5
需要面における具体的な取り組み	6 ~ 9
(参考) JEPXスポット市場の動向	10
(参考) 至近の燃料市況	11 ~ 13
(参考) 最終保障供給の状況	14 ~ 18
(参考) 最終保障供給料金の見直し	19 ~ 22
新料金プラン「卸市場価格連動メニュー」	23 ~ 25

今夏におけるエリア別の需給バランス

関西エリアの今夏需給バランスについては、7月の想定需要2,878万kWに対し、供給力が2,988万kW、予備率が3.8%となり、電力の安定供給に必要な予備率(3%以上)を確保。

2022年度夏季需給バランス

〈電源I' 考慮、火力増出力運転 考慮、連系線 活用、計画外停止率 考慮、不等時性 考慮〉

(送電端,万kW,%)

【7月】	東3エリア	北海道	東北	東京	中西6エリア	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	9エリア	沖縄	10エリア
供給力 (内 電源I')	7,895 (146)	569 (10)	1,397 (40)	5,929 (95)	9,636 (242)	2,744 (73)	531 (14)	2,988 (81)	1,136 (28)	539 (13)	1,698 (34)	17,532 (388)	204 (7)	17,736 (395)
最大需要電力	7,576	469	1,356	5,752	9,301	2,662	511	2,878	1,094	519	1,636	16,877	159	17,037
供給予備力	319	100	42	177	335	82	19	110	42	20	62	654	45	699
供給予備率	4.2	21.4	3.1	3.1	3.6	3.1	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	28.2	4.1
予備力3%確保 に対する余剰分	92	86	1	5	56	2	4	23	9	4	13	148	40	188
【8月】	東3エリア	北海道	東北	東京	中西6エリア	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	9エリア	沖縄	10エリア
供給力 (内 電源I')	7,893 (146)	527 (10)	1,483 (40)	5,883 (95)	9,654 (242)	2,734 (73)	532 (14)	2,996 (81)	1,139 (28)	549 (13)	1,703 (34)	17,547 (388)	199 (7)	17,746 (395)
最大需要電力	7,523	469	1,420	5,634	9,246	2,619	510	2,870	1,091	526	1,631	16,769	162	16,931
供給予備力	370	58	63	249	408	116	23	127	48	23	72	778	36	814
供給予備率	4.9	12.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.6	22.3	4.8
予備力3%確保 に対する余剰分	144	44	20	80	131	37	7	41	15	7	23	275	31	307
【9月】	東3エリア	北海道	東北	東京	中西6エリア	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	9エリア	沖縄	10エリア
供給力 (内 電源I')	7,380 (146)	512 (10)	1,404 (40)	5,464 (95)	8,775 (242)	2,610 (73)	483 (14)	2,616 (81)	1,037 (28)	522 (13)	1,507 (34)	16,154 (388)	192 (7)	16,346 (395)
最大需要電力	6,921	415	1,330	5,176	8,312	2,472	458	2,478	983	494	1,427	15,234	160	15,394
供給予備力	459	97	74	288	462	137	25	138	55	27	79	921	32	952
供給予備率	6.6	23.3	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	6.0	19.7	6.2
予備力3%確保 に対する余剰分	251	84	34	132	213	63	12	63	25	13	37	464	27	490

- ※ 供給力は、計画外停止を考慮して全国一律で2.6%（計画外停止率）を減じた値。
- ※ 需要は、最大需要発生時の不等時性を考慮した値。
- ※ 連系線の活用は、空容量の範囲内で各エリアの予備率が均平化するように供給力を移動。
- ※ 連系線の空容量は、2022年度の供給計画に計上されたエリア間取引により算定。

- ※ 電源I'の供給力は、電源分・DR分ともに供給力として計上。
- ※ 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

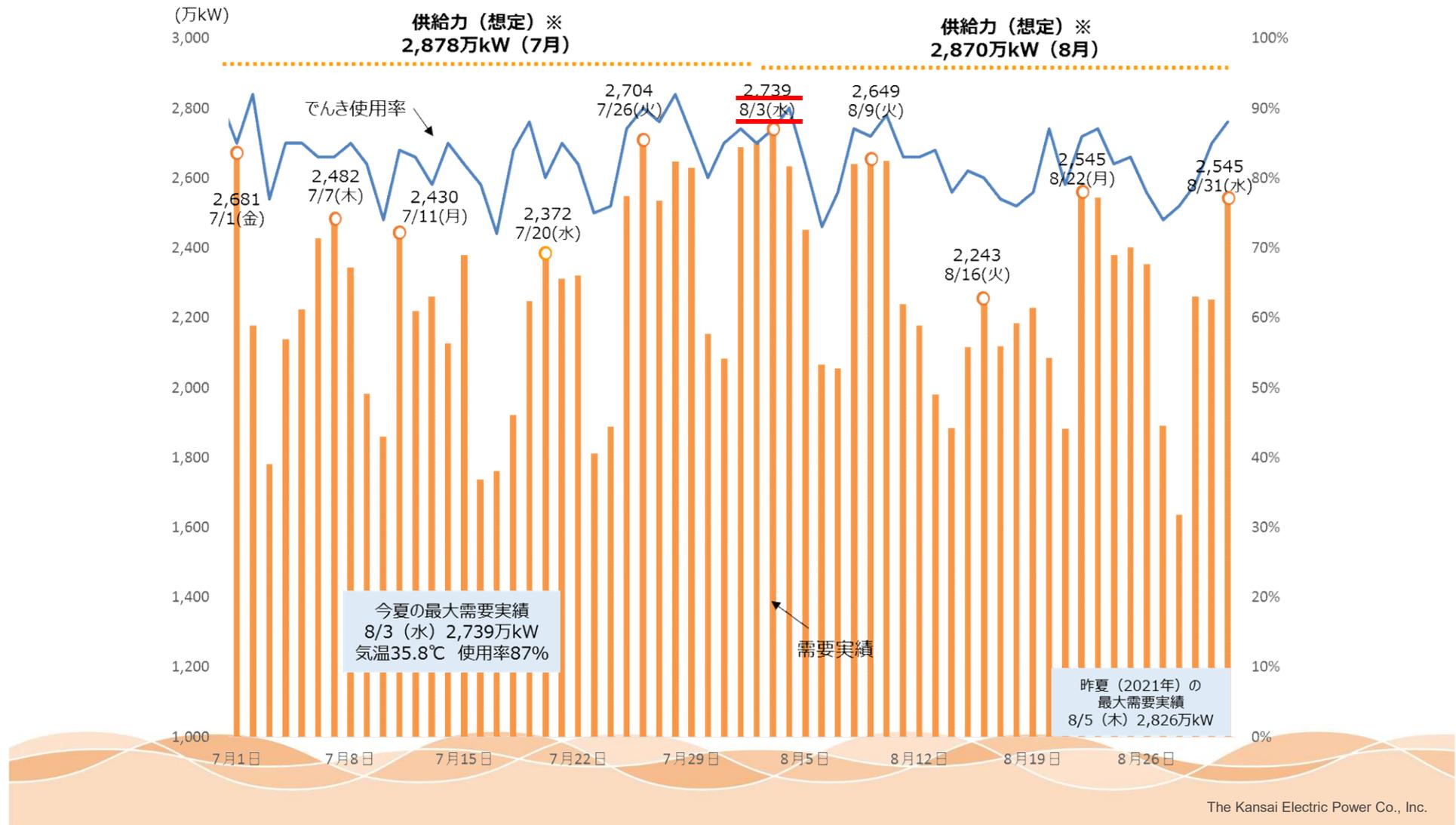
【出典】電力需給検証報告書（2022年5月 電力広域的運営推進機関）から抜粋

今夏の最大電力実績の推移（関西エリア）

7月1日から8月31日までの最大需要は2,739万kW（使用率87%）であり、今のところ、余裕ある電力需給状況です。引き続き、安全・安定供給に全力で取組んでまいります。

2022年度夏季 最大電力実績の推移（関西エリア）

※電力需給検証報告書(2022.5)



今冬におけるエリア別の需給見通し

2022年度冬季の電力需給見通し

- 電源の補修計画の変更や、kW公募の落札結果等を反映したH1需要に対する予備率※は、**1月は東北、東京エリアで4.1%、中西6エリアで4.8%。2月は東北、東京エリア4.9%**となった。
- **安定供給に最低限必要な予備率3%を確保することができるものの、依然として厳しい見通し。**

<6月時点> 厳気象H1需要に対する予備率 <現時点>

	12月	1月	2月	3月		12月	1月	2月	3月
北海道	12.6%	6.0%	6.1%	12.3%	北海道	14.4%	7.9%	8.1%	12.1%
東北	7.8%	1.5% (103)	1.6% (95)		東北	9.2%	4.1%	4.9%	11.5%
東京		5.5%	1.9% (99)	3.4%	東京	7.3%	4.8%	6.4%	
中部	中部				11.3%				
北陸	北陸								
関西	関西								
中国	中国								
四国	四国				九州				九州
九州	九州	11.3%							
沖縄	45.4%	39.1%	40.8%	65.3%	沖縄	44.5%	33.1%	34.4%	56.6%

注：()内は3%に対する不足量 単位：[万kW]

(出典) 左図：第74回（2022年6月28日）調整力及び需給バランス評価等に関する委員会資料

右図：第53回（2022年9月15日）電力・ガス基本政策小委員会資料3-1

※p41で御議論いただく、電力広域的運営推進機関によって示された予備率のうち、kW公募で非落札となった電源を含んだ予備率

【出典】2022年9月15日 第53回 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会資料から抜粋

今夏の需給対策（需要・供給面における具体的な取組み）

	国の総合対策の項目	内容	実施主体
供給面	電源募集（kW公募） 追加的な燃料調達募集(kWh公募)の実施	○kW公募は8社合同で135.7万kW、kWh公募は9社合同で9.3億kWhを落札	関西送配電
	発電所の計画外停止の未然防止等の実施 （燃料確保を含む）	○巡視点検や日常点検等による各発電所の異常および異常兆候の早期把握・対処等 ○燃料ガイドライン（資源エネルギー庁）を踏まえた燃料確保	関西電力
	非化石電源の最大限の活用	○美浜3号機の運転再開（並列）時期の前倒し ○自社太陽光について、監視映像および発電データの確認の徹底を通じた発電量の維持	関西電力
需要面	節電・省エネキャンペーンの推進	○SNSやHP等を通じた各種節電・省エネ情報の発信	関西電力 関西送配電
	産業界や自治体と連携した節電対策体制の構築	○自治体等と連携した節電PRチラシの配布等 → 6	関西電力 関西送配電
	対価支払型のデマンドレスポンス（DR）の普及拡大	○ご家庭のお客さまの30分データを元に、DRによって基準値からの需要抑制実績に応じて「はぴeポイント」を進呈するプロジェクトを実施（7/1～受付開始） → 7～9 ○法人のお客さま（特高・高圧500kW以上）の前年同月の電力量からの需要抑制分について、割引する料金メニューを設定	関西電力
	事業場の節電対応	○従業員の安全と健康の確保を前提に、各所の実態も考慮したうえで、空調、照明等の節電措置を実施	関西電力 関西送配電
	節電要請の高度化	○前々日の準備情報、前日の警報・注意報の実務的な詳細設計について、広域機関と検討中	関西送配電
	使用制限令の検討とセーフティネットとしての計画停電の準備	○計画停電の枠組みをHPで公開(2018.7～) ○国や広域機関とも連携しながら適切に対応	関西送配電

※2022年6月28日 関西電力・関西電力送配電 プレス発表資料より

需要面における具体的な取組み（節電PRチラシ）

節電にご協力をお願いいたします

今夏の電力需給は、安定供給に最低限必要な予備率3%を上回る見通しです。^{#1} しかしながら、想定を超える電力需要の増加等を踏まえると、予断を許さない状況です。

皆さまには、無理のない範囲で節電にご協力をお願いいたします。

#1 2022年度の電力需給に関する報告対策(2022年6月7日 電力需給に関する検討会)

ご家庭における主な節電・省エネの方法

エアコン



室内の冷やし過ぎに注意^{#2}

#2 エアコンの設定温度による室温の変化にご注意いただき、過度に寒暑を与えない範囲でご協力を願います。

外気温31℃の時、エアコン(2.2kW)の冷房設定温度を27℃から28℃にした場合
(使用時間:90時間/日)

年間電費30.24kWhの省エネ
→約820円の節約

冷蔵庫



設定温度を「強」から「中」に

省エネ効果

設定温度を「強」から「中」にした場合
(外気温22℃)

年間電費61.72kWhの省エネ
→約1,670円の節約

照明



不要な照明をこまめに消灯

54Wの白熱電球1灯の点灯時間を1日1時間短縮した場合

年間電費19.71kWhの省エネ
→約530円の節約

(関西エネルギー庁 省エネポータルサイトを参考に作成)

節電・省エネに関する情報

詳しくはこちら ▶▶▶

(関西エネルギー庁 省エネポータルサイト)



電力の需給状況や安定供給の取組み

詳しくはこちら ▶▶▶

(関西電力送配電ホームページ)



ご家庭向け「夏の節電プロジェクト2022」の概要①

- 当社は、Nature株式会社と提携し、当社の家庭向けの電気料金メニューをご利用のお客さまを対象に、ご家庭向け節電プロジェクトを実施しています。
- 具体的には、電力需給が逼迫するタイミングなどで、当社が前日にお知らせする対象時間に、お客さまに節電を実施いただき、お客さまごとに算定する標準的な使用量と比較し、節電実績に応じて、「はぴeポイント」を進呈します。

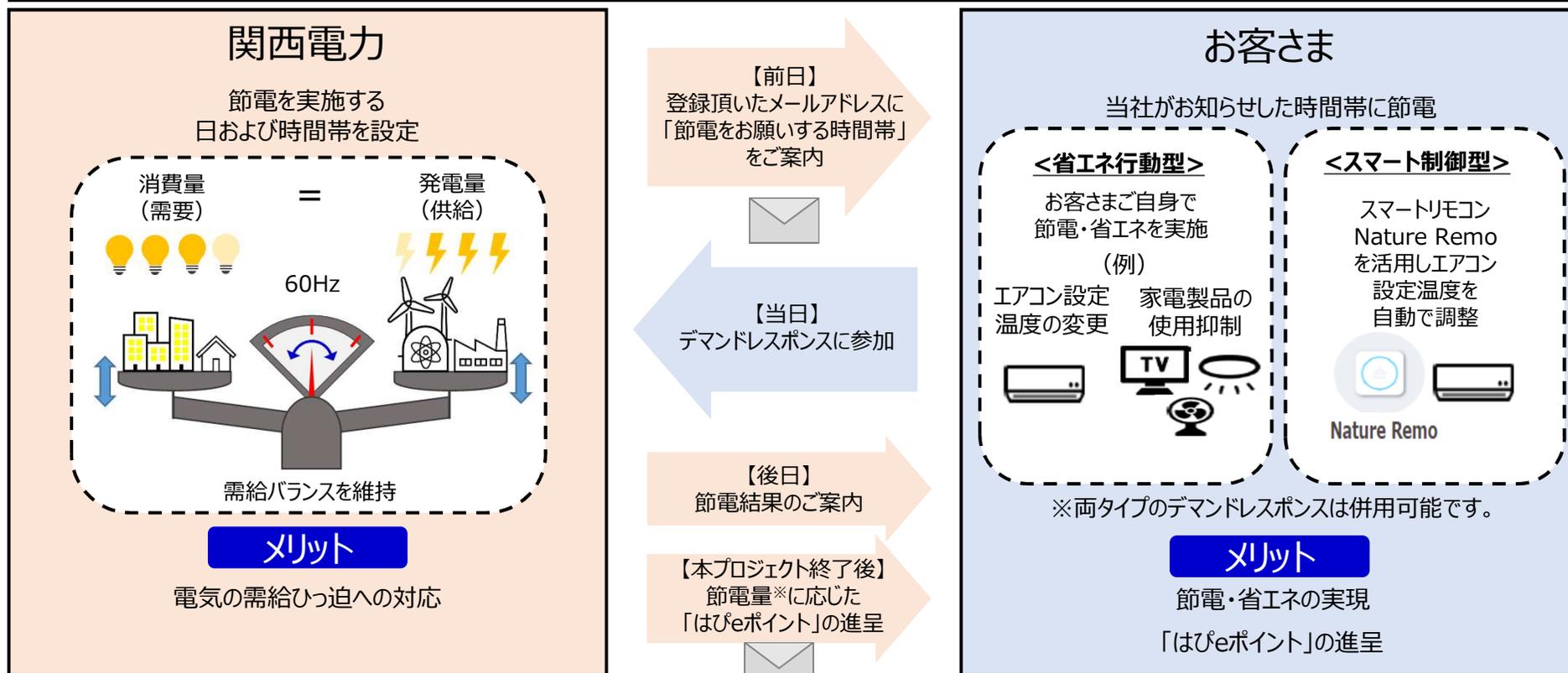
名称	夏の節電プロジェクト2022
申込み期間	2022年7月1日（金）から2022年9月15日（木）まで
実施期間	2022年7月4日（月）から2022年9月30日（金）まで
ご参加いただけるお客さま	関西エリア・首都圏エリアの関西電力のご家庭向け対象料金メニューにご加入のお客さま ※「はぴeみる電」にご加入いただく必要がございます [登録無料]
対象料金メニュー	<p>【関西エリア】 従量電灯A、従量電灯B、なつくでんき、なつくでんきBiz、eおとくプラン、はぴeセット、はぴeタイム、はぴeタイムR、eスマート10、時間帯別電灯、季特別電灯P S、withU-NEXTでんき、withU-NEXTでんき(Gセット)、withポイントでんきd</p> <p>【首都圏エリア】 はぴeプラス</p>

ご家庭向け「夏の節電プロジェクト2022」の概要②

実施方法	省エネ行動型 デマンドレスポンス	当社より節電をお願いしたい日の前日中にご参加いただけるお客さまにメールでご案内します。 当日はお客さまご自身で節電・省エネを実施いただきます。
	スマート制御型 デマンドレスポンス	Nature株式会社のスマートリモコン「Nature Remo」をお持ちのお客さまは、「Nature Remo」に登録したエアコンを自動で節電を試みる機能「Nature Smart Eco Mode」をオンにすると、節電対象の時間帯のみエアコンの温度を自動で調整します。
特典		<p>節電量1kWhあたり5ポイントの「はぴeポイント」を進呈します。</p> <p>※節電量とは、お客さまごとに算定する標準的な使用量よりも実際の使用量が下回る場合に算定した電気使用量です。</p> <p>※「はぴeポイント」の進呈は、実施期間の終了後に一括で進呈します。</p> <p>※ポイントの進呈にあたっては、「はぴeポイント」の進呈までに「はぴeポイント」への会員登録【無料】が必要です。</p>

ご家庭向け「夏の節電プロジェクト2022」のイメージ

- 当社は、「電気の需給ひっ迫の度合いが高まる時間帯」など節電をお願いしたい日（以下、「節電をお願いする時間帯」）の前日中にご参加いただけるお客さまにメールでご案内します。
 - 当日、「節電をお願いする時間帯」において節電いただいたお客さまには、節電量※ 1 kWhに対して5ポイントの「はぴeポイント」を進呈します。
- ※節電量は、過去の使用量に基づき、お客さまごとに算定される標準的な使用量から、実際の使用量を差し引いた値とします。



※節電量は、以下の通りです。

<スマートメーターが設置されているお客さま>

○「節電をお願いする時間帯」において、お客さまごとに算定する標準的な使用量に対して、実際の使用量が下回った場合に算定される、その削減量をいいます。

なお、標準的な使用量は、エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネスに関するガイドラインに基づき、お客さまごとの過去の電気の使用状況を基に当社が算定します。

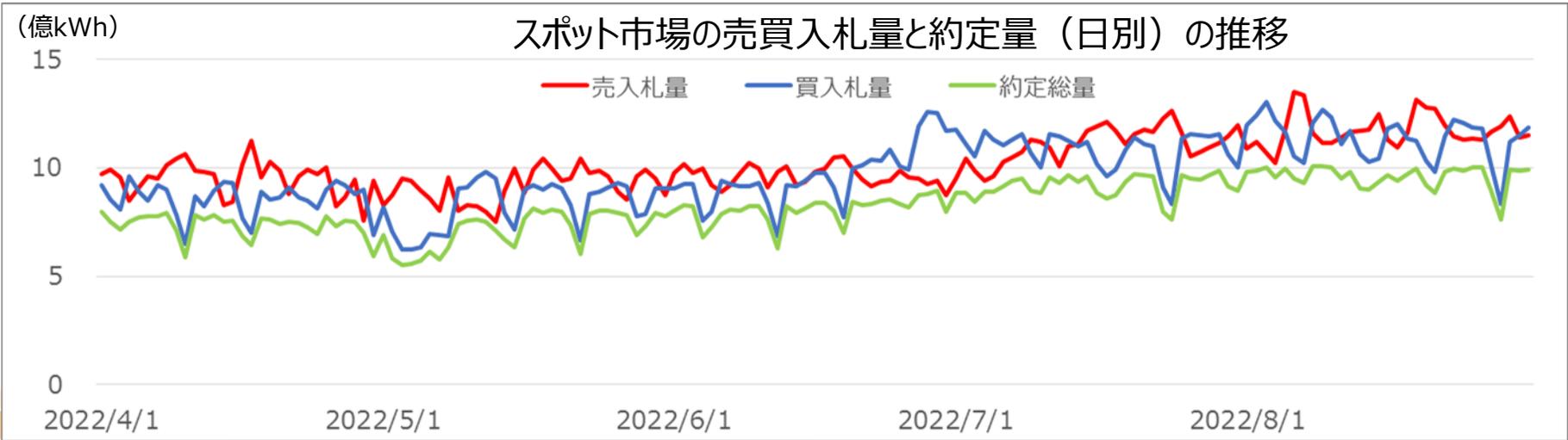
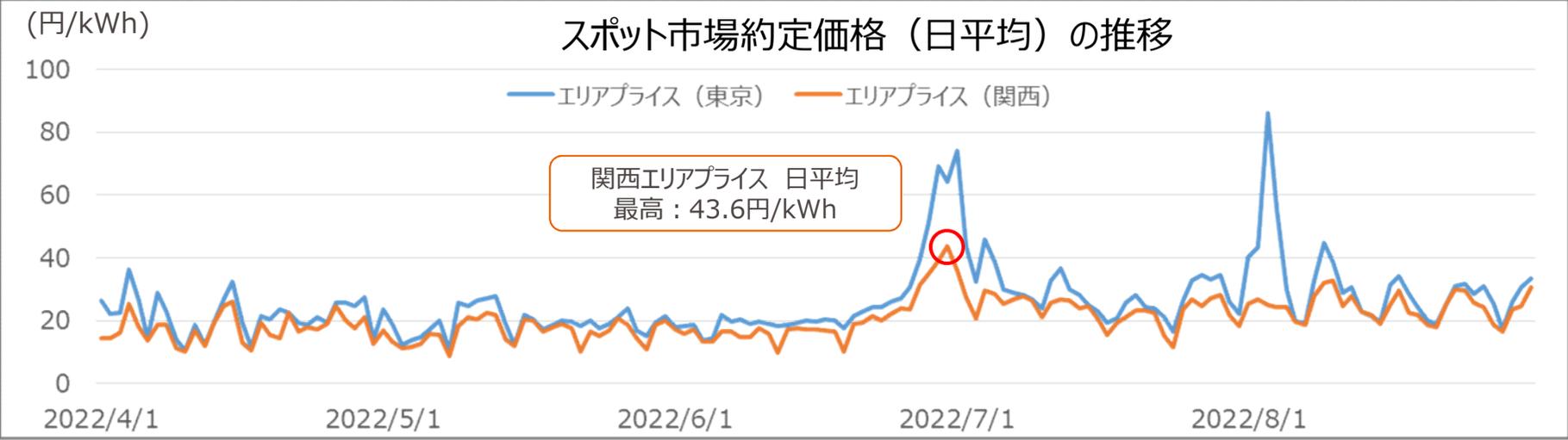
<スマートメーターが設置されていないお客さま>

○「節電をお願いする時間帯」が含まれる月分における、お客さまごとに算定する標準的な使用量に対して、実際の使用量が下回った場合に算定される、その削減量をいいます。

なお、実際の使用量は、「節電をお願いする時間帯」が含まれる月分における「各月の30分あたりのご使用量」を元に、標準的な使用量は、前年（2021年）同月における、「各月の30分あたりのご使用量」を元に当社が算定いたします。1月の単位は電気特定小売供給約款および電気供給条件（低圧）、電気供給条件（低圧）【管外】によります。The Kansai Electric Power Co., Inc.

○JEPXスポット市場は、6月末の需給ひっ迫やLNG価格高騰を受けて価格が上昇。関西エリアプライスの日平均の今夏最高値は6/30の43.6円/kWhとなった。

○売買入札量についても、6月下旬以降、気温上昇に伴う電力需要の増加等を背景に、買入札量が大幅に増加し、売入札量を上回る状況が一時継続した。



- 2021年冬季において、欧州のガス在庫枯渇懸念に端を発する世界的な天然ガス需給タイト化の影響により、アジアLNGスポット価格が大きく上昇
- 本年2月のウクライナ紛争以降LNG需給がタイト化する中、ロシアからのガス供給量減少やLNG生産トラブルに加え、欧州の猛暑・渇水、日韓の冬季LNG調達といった需要側要因も重なりさらに高騰

アジアLNGスポット価格

ドル/mmbtu



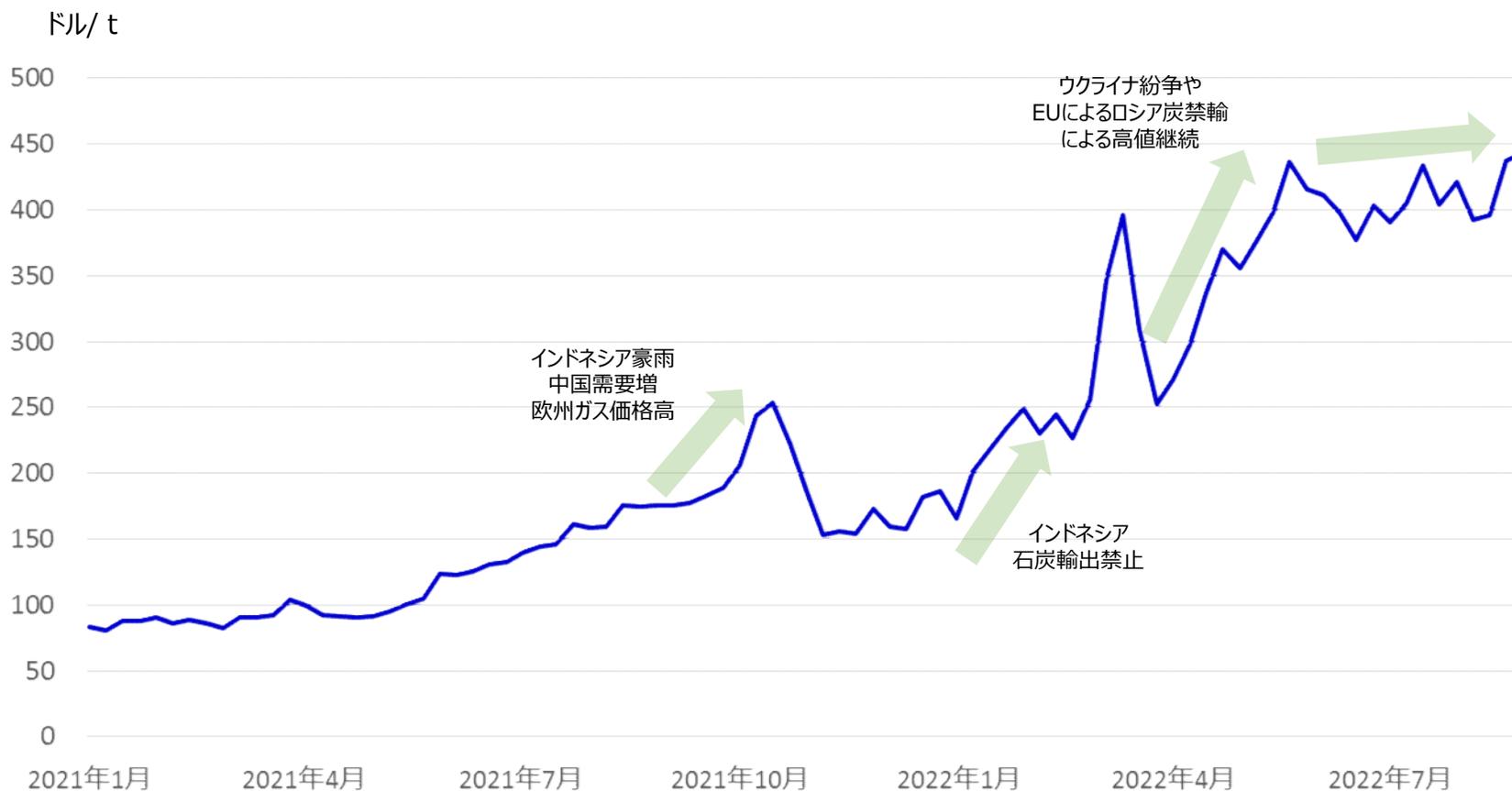
- 2021年に入り、コロナからの経済回復により上昇基調
- 本年2月のウクライナ紛争以降、西側諸国によるロシア産原油禁輸等の影響を受け高止まりの状況であったが、欧米のインフレ懸念による景気減退、中国のコロナ感染再拡大による石油需要減退懸念等により緩やかに下落

Brent (英国北海油田価格)



- 2021年に入り、インドネシアの豪雨による供給不調やガス価格上昇に伴う欧州の石炭需要増加などにより高騰
- 本年2月のウクライナ紛争の影響を受けて高騰しているところ、EUによるロシア炭禁輸実施等によりさらに供給量が不足し、需給タイト感が継続

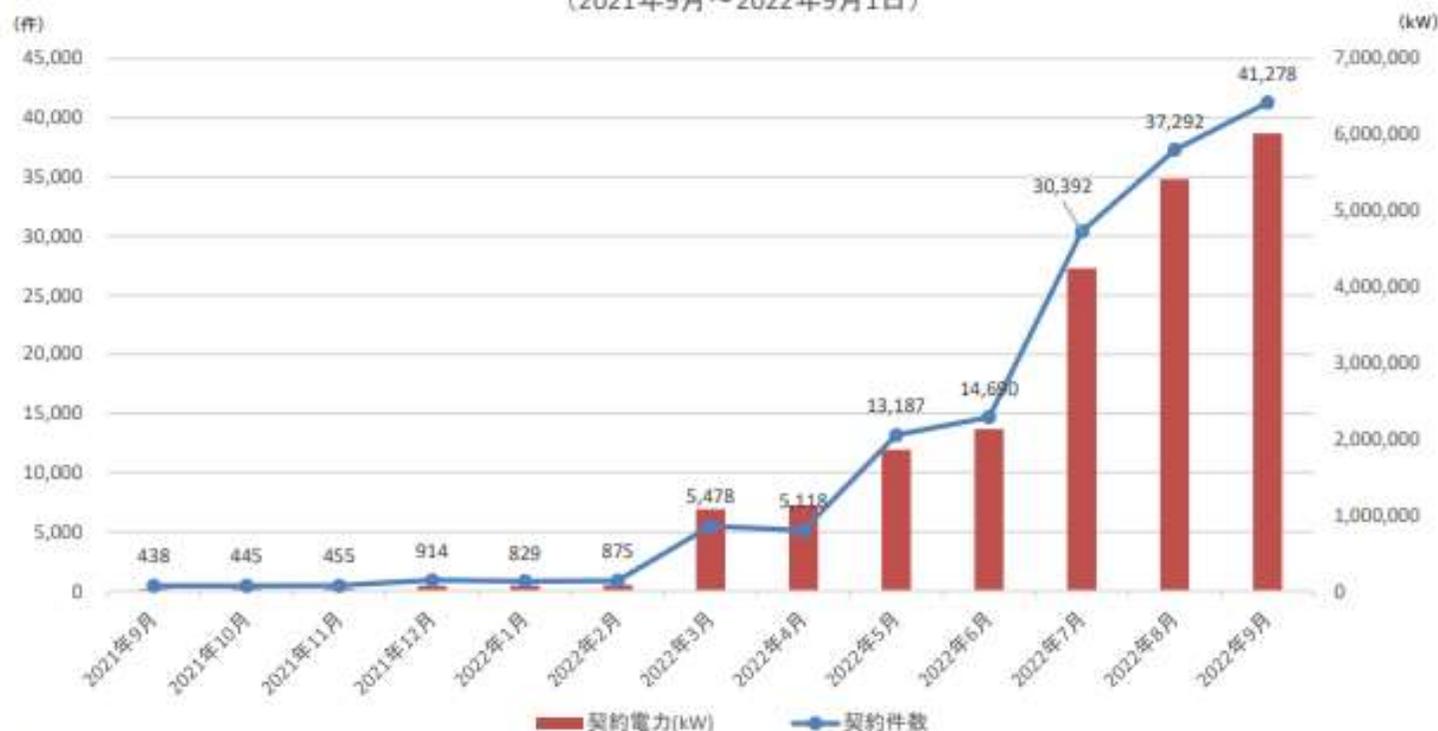
豪州一般炭スポット価格



(参考) 最終保障供給の現状

- 3月以降、新電力と契約していた企業等で、**最終保障供給の契約に移行する件数が増大**。
- 燃料価格上昇を受けた電力市場価格の高騰などにより、**撤退する新電力が出現**。また、大手電力（小売）においても、燃料価格高騰により標準メニューでは赤字になることから、新規顧客の受付を停止したため、**大手電力（送配電）の最終保障供給に流入**。

最終保障供給の契約電力及び件数
(2021年9月～2022年9月1日)



※ 2022年9月1日時点、各一般送配電事業者に聴取した契約済件数を基に電力・ガス取引監視等委員会が作成。現在契約手続中の申込みにおける廻り契約の状況等により、変動することもありえる。

【出典】2022年9月15日 第53回 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会資料から抜粋

(参考) 最終保障供給の現状と課題

- 電気事業法上、一般送配電事業者は、いずれの小売電気事業者とも電気の需給契約を結ばない高圧以上の需要家に対し、電気を供給する義務を負う（最終保障供給）。この義務は、すべての需要家が電気の供給を受けられることを制度的に担保するためのセーフティネットとの位置付けである。

※低圧の需要家に対しては、旧一般電気事業者の規制料金メニューあり

- しかしながら、昨今の卸電力市場価格高騰に伴う最終保障供給料金と一般的な自由料金との逆転現象等により、需要家からの最終保障供給の申込みが急増している。

- 6月15日時点では、最終保障供給の契約件数及び契約電力は全国で約1万4000件、約211万kW（夏の全国の最大電力需要の約1.3%）となっており、これから夏の高需要期を迎えるにあたり、一般送配電事業者が安定的に必要な供給力を確保できるか、懸念が生じている。

※現在、一般送配電事業者は、調整力（電源Ⅰ、電源Ⅱ）を活用して最終保障供給している。

- 本来、最終保障契約は、限定的な状況で適用される一時的な対応であり、需要家は速やかに小売電気事業者と再契約することが期待される。最終保障供給が相対的に割安となっている状況を解消するべく、現在、本小委を含め関係審議会において対応策の検討が進められている（資料4-1）。

- こうした状況において、夏季の高需要期を迎えるに当たり、一般送配電事業者が最終保障供給に必要な供給力を確保できない懸念を早急に解消する必要があるため、その具体的な方策について、御議論いただきたい。

論点① 供給力確保の方策

論点③ 費用負担にかかる整理

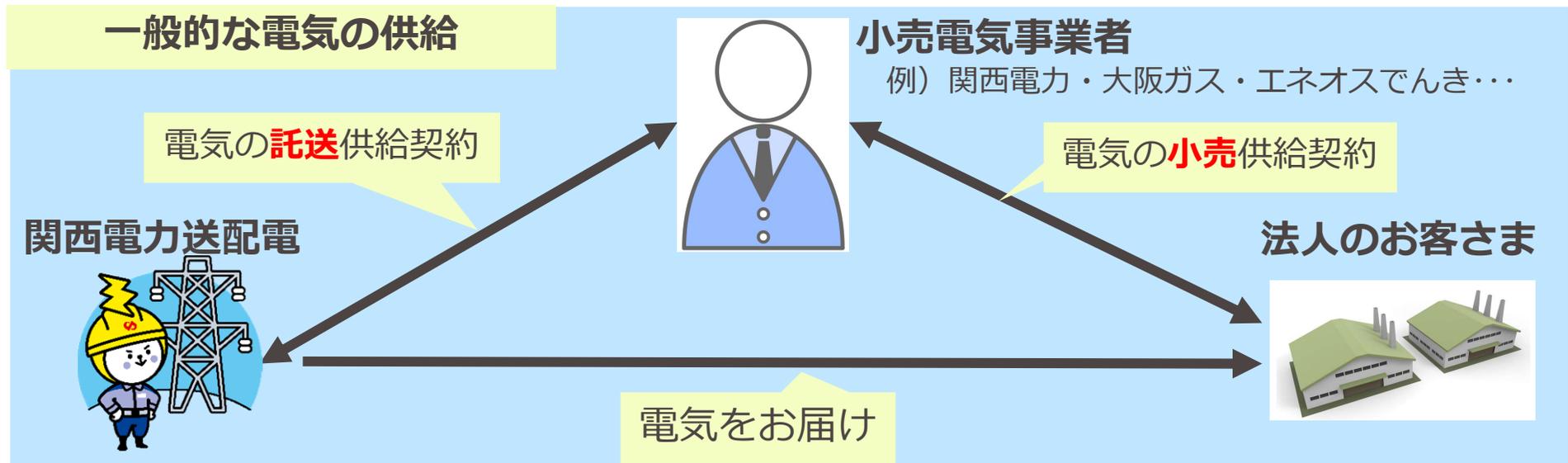
論点② 市場調達における条件

論点④ 卸電力市場取引の参加方法

【出典】2022年6月30日 第51回 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会資料から抜粋

(参考) 電気最終保障供給 (LR供給) とは

- 電気最終保障供給 (LR供給) とは、高圧または特別高圧の需要者がいずれの電気小売電気事業者と契約ができなかった場合、**一般送配電事業者** (関西電力送配電) が電気を送ること。



対象のお客さま

- ✓ **高圧・特別高圧**で電気を供給しているお客さまが契約可能。
※**低圧供給のお客さまは、みなし小売電気事業者の「電気特定小売供給」で契約が可能。**
- ✓ 現在お客さまが契約されている小売電気事業者から当社へ、**託送供給契約解除申込が提出されているお客さまが対象。**

電気料金

- ✓ LR契約の電気料金は、**みなし小売電気事業者が設定している標準的な料金メニューの約2割増しの料金（臨時的な料金メニュー相当）**で設定されている。

契約期間

- ✓ 需給契約が成立した日から、あらかじめ定めた契約期間満了日の日まで。
- ✓ なお、契約使用期間は**1年をこえないもの**としている。

契約電力

- ✓ 1年間を通じての最大の負荷を基準として、**お客さまと協議し決定**する。

<需要家>

電気の供給を必要とし、供給を受けて使用している者。

<小売電気事業者>

小売り電気事業を営むために経済産業大臣の登録を受けた者。

<みなし小売電気事業者>

旧一般電気事業者である小売電気事業者。

(関西電力送配電の供給エリアであれば関西電力株式会社)

<一般送配電事業者>

経済産業大臣から一般送配電事業を営む許可を受けた者。

(関西エリアであれば関西電力送配電株式会社)

<最終保障供給>

高圧または特別高圧で供給を受けるお客さまが、万一、いずれの小売電気事業者とも電気の需給に係る契約の交渉が成立しなかった場合に、一般送配電事業者が電気最終保障供給約款に基づき電気を供給すること。

(みなし小売電気事業者が設定している標準的な料金メニューの約2割増しの料金を設定)

<特定小売供給>

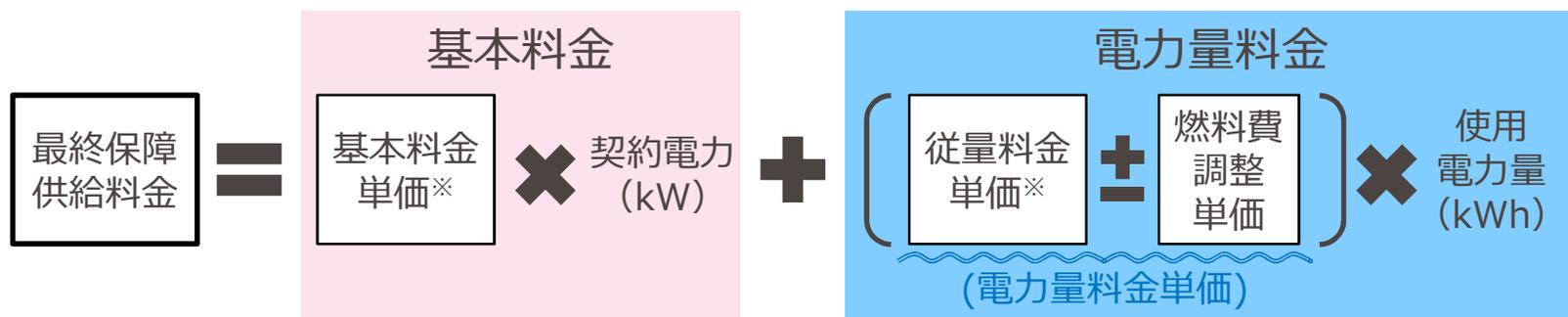
低圧で供給を受けるお客さまの場合、みなし小売電気事業者が特定小売供給約款に基づき電気を供給すること。

(参考) 最終保障供給料金の見直し (料金体系)

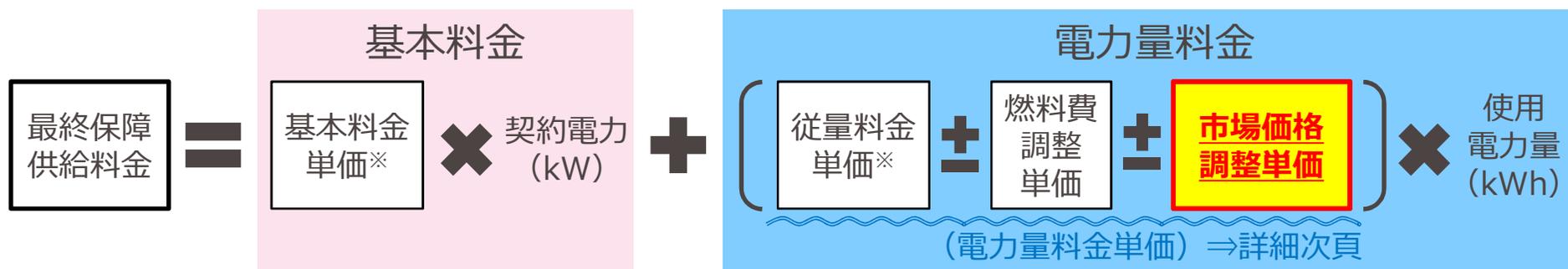
- 基本料金単価に変更はありません。
- 電力量料金単価については、従量料金単価および燃料費調整単価に加え、新たに卸電力市場価格を反映した市場価格調整単価 (詳細次項) を加算・減算いたします。

注：最終保障供給料金には、基本料金、電力量料金に加えて、別途再生可能エネルギー発電促進賦課金が加算されます。

<現行の料金体系>



<見直し後の料金体系>

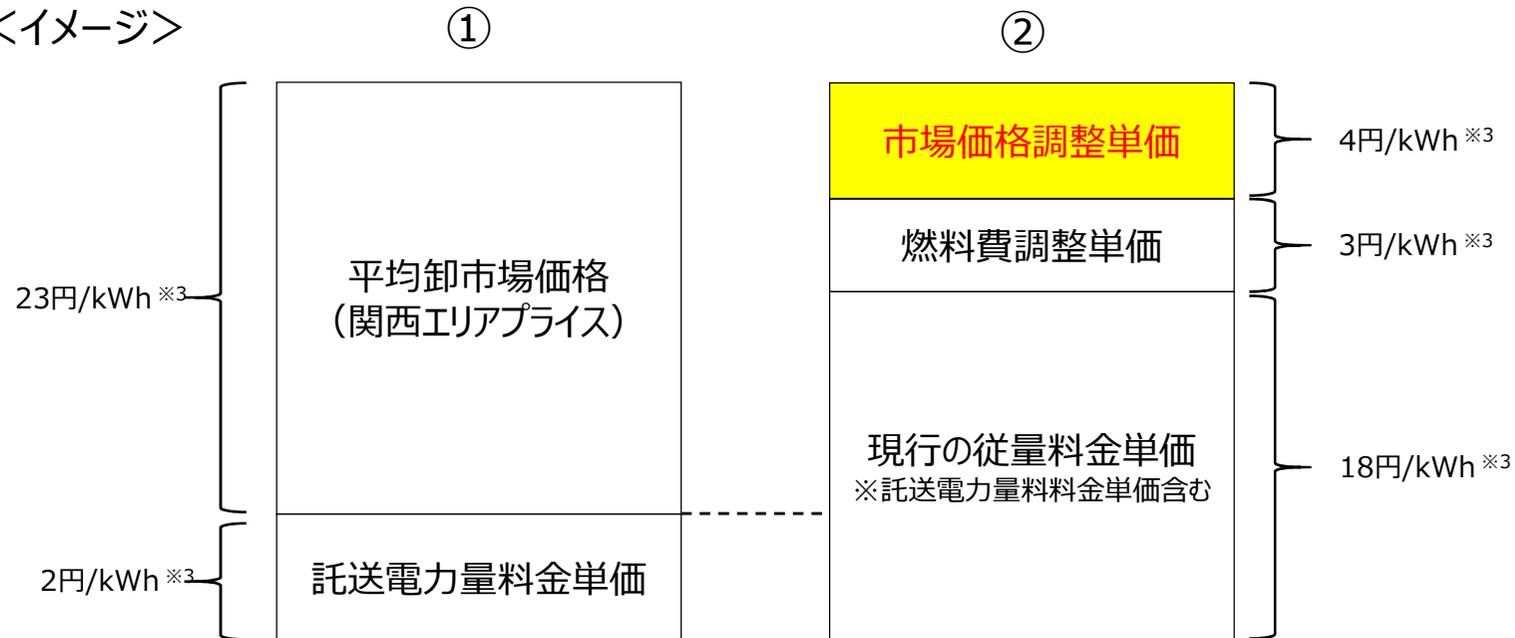


※当社供給区域におけるみなし小売電気事業者 (関西電力株式会社) が公表している標準メニューの1.2倍の水準

(参考) 市場価格調整単価の適用方法 (概要)

- 平均卸市場価格※¹ (関西エリアプライス※²) に当社の託送供給等約款に定める託送電力量料金単価を加えた金額 (以下、イメージ①) が、関西電力送配電の最終保障供給約款に定める従量料金単価に燃料費調整単価を加味した金額を上回る場合に、その差額を市場価格調整単価として適用し料金を算定します (以下、イメージ②)。

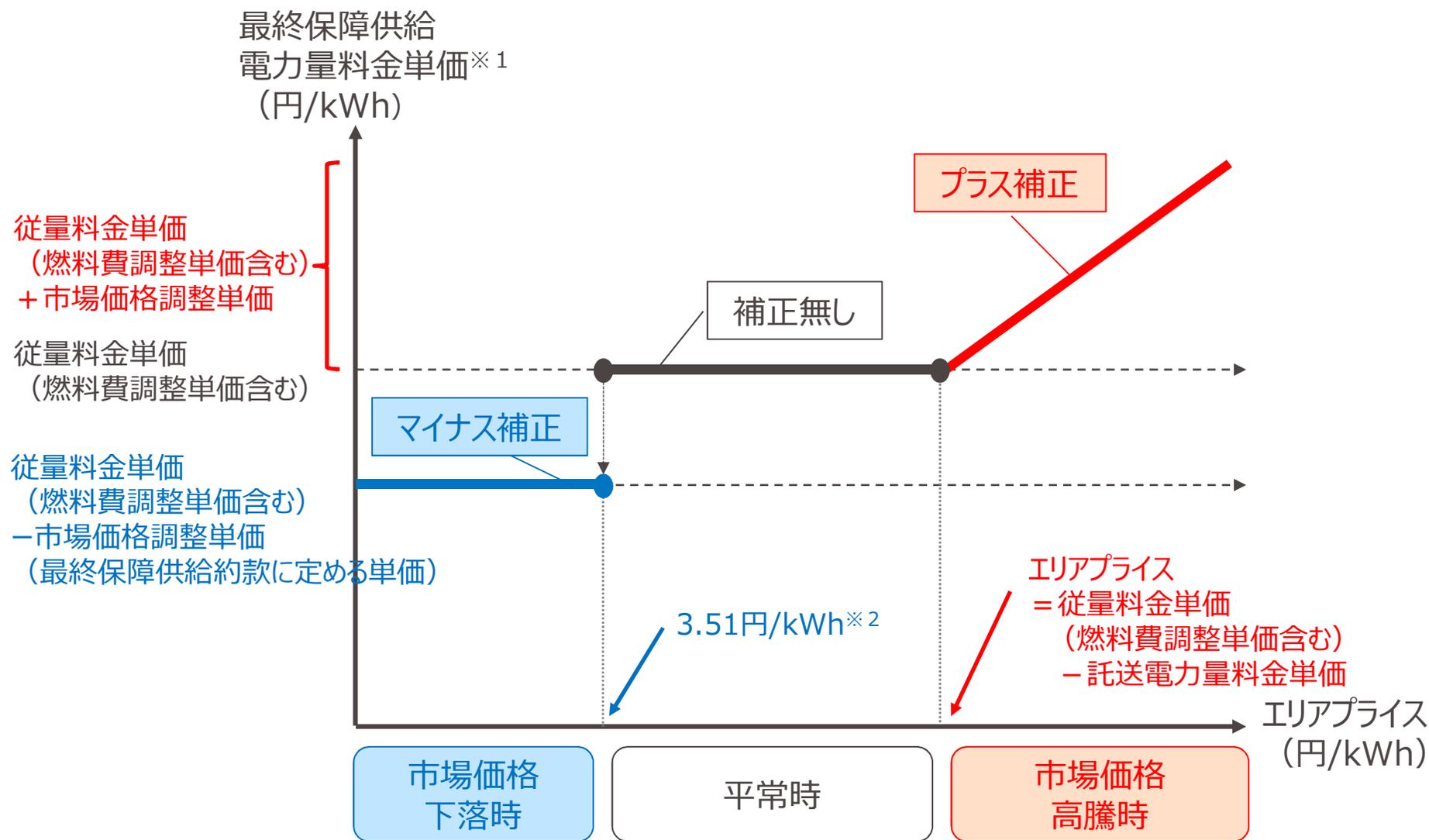
<イメージ>



※1 平均卸市場価格については、当社が定める算定期間 (21日～翌月20日) における関西エリアプライスの平均に消費税相当額を加えたものとします。

※2 エリアプライスとは、一般社団法人日本卸電力取引所の翌日取引市場 (スポット市場) における各エリアの価格です。関西電力送配電供給区域の取引価格を関西エリアプライスといいます。

※3 実際の単価とは異なります



※1：従量料金単価から燃料費調整単価および市場価格調整単価を加算・減算した値

※2：2019年度～2021年度で最も安い期間（21日～翌月20日）の関西エリアプライスの平均値です。

(参考) 最終保障供給料金約款における基本料金と従量料金

<契約種別>

契約種別		適用
最終保障電力	A	事務所ビル、病院、スーパー等、電灯と動力を合わせて使用する需要
	B	工場、冷蔵倉庫等、主に動力を使用する需要
最終保障予備電力	A	最終保障電力 A のお客さまの予備電力契約
	B	最終保障電力 B のお客さまの予備電力契約

<料金単価>

契約種別	電圧	基本料金 (契約電力1kWにつき)	従量料金 (1kWhにつき)	
			夏季	その他季
最終保障電力A	6kV	2,118円60銭	夏季	16円29銭
			その他季	15円01銭
	20~30kV	2,065円80銭	夏季	14円80銭
			その他季	13円65銭
	70kV	2,013円00銭	夏季	14円49銭
			その他季	13円37銭
最終保障電力B	6kV	2,277円00銭	夏季	14円59銭
			その他季	13円49銭
	20~30kV	2,224円20銭	夏季	13円72銭
			その他季	12円69銭
	70kV	2,171円40銭	夏季	13円35銭
			その他季	12円32銭

＜卸市場価格連動メニューとは＞

卸市場価格連動メニューとは、日本卸電力取引所（JEPX）のスポット市場価格（関西エリアプライス）に応じて、電力量料金を算定する契約。

＜対象となるお客さま＞

高圧以上の供給電圧で滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県（一部を除く）、福井県の一部、岐阜県の一部、三重県の一部の地域で電気をご使用になるお客さま。

＜料金算定内容＞

基本料金 + 電力量料金（±燃料費調整額±卸市場価格調整額） + 再エネ賦課金

＜その他＞

自家用発電設備を設置されているお客さま向けに、別途卸市場価格連動の自家発補給電力メニューも設定。

<料金算定内容>

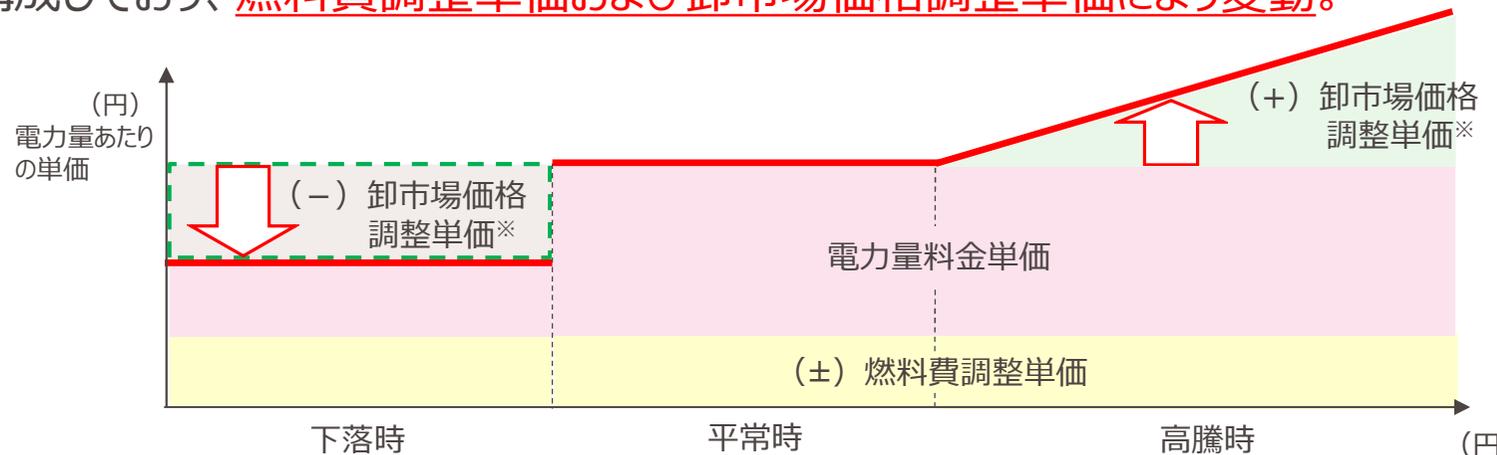
(例) 【今回の新料金メニュー】卸市場価格連動メニュー [参考] 【関西電力送配電】新LRメニュー
 (特別高圧電力Aの場合) (特別高圧電力Aの場合)

供給電圧	基本料金 (円/kW)	電力量料金 (円/kWh)
2万or3万Vの場合	1,721円50銭	13円65銭
7万Vの場合	1,677円50銭	13円37銭

供給電圧	基本料金 (円/kW)	電力量料金 (円/kWh)
2万or3万Vの場合	2,065円80銭	13円65銭
7万Vの場合	2,013円00銭	13円37銭

<電力量あたりの単価変動イメージ>

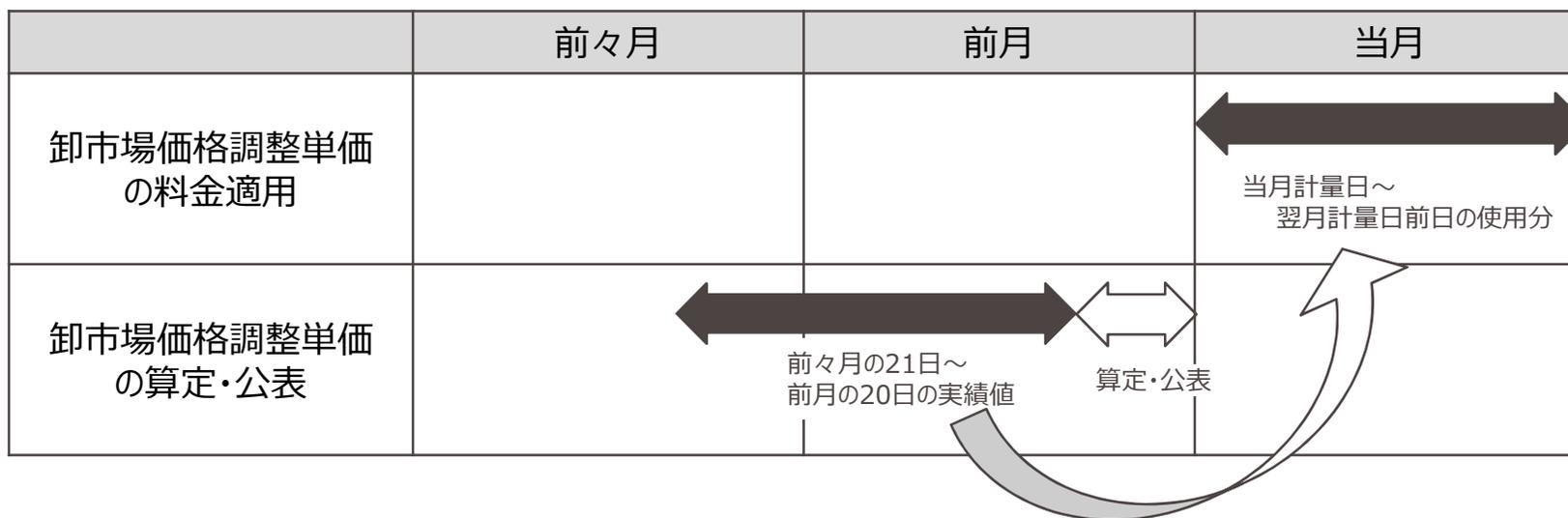
○電力量あたりの単価は、電力量料金単価・燃料費調整単価・卸市場価格調整単価で構成しており、**燃料費調整単価および卸市場価格調整単価により変動。**



※ 前々月21日～前月20日までの日本卸電力取引所（JEPX）のスポット市場価格の実績値（関西エリアプライス）に応じて変動。

<卸市場価格調整単価の適用時期>

当月の電力量料金に前々月21日～前月20日までの日本卸電力取引所（JEPX）のスポット市場価格の実績値（関西エリアプライスの平均卸市場価格）から算定された卸市場価格調整単価を適用。



ご清聴、ありがとうございました。

